



❀ もうすぐ2学期が始まります。❀

まだまだ暑い日が続いていますが、天高生のみなさん、お元気ですか？天高図書館も館内の特別清掃、蔵書点検が終わり、皆さんの来館を今か、今かとお待ちしています。今月は、映画・ドラマの原作本を紹介します。

今年度も、ポプラ社主催の「全国学校図書館 POP コンテスト」(締切 11月30日)に参加します。図書委員の皆さんには、7月7日の委員会の時にお願いしました。図書委員でなくても、参加できます。参加してみたいという人は、新学期になりましたら、図書館カウンターで、たずねてください。詳しくは こちらの HP をみてください。



<https://www.poplar.co.jp/schoolLibrary/pop-contest/>

映画・ドラマの原作

『ハヤブサ消防団』 池井戸潤 著 集英社

池井戸作品は、半沢直樹シリーズなどの経済小説が有名ですが、今回の作品のテーマは「消防団」。主人公は、過去に一度、ミステリー作品の賞を取りましたが、その後は鳴かず飛ばず。数本の連載で、暮らしを立てていました。そんな時、幼い頃の田舎暮らし経験が忘れられず、都会暮らしの閉塞感も相まって、田舎に移住することを決心しました。のんびり田舎ライフを楽しんでいたある日、「消防団」に入らないかと幼なじみから誘いを受け、最初は乗り気ではありませんでしたが、ある事件をきっかけに入隊することに。その日を境に、主人公は、ハヤブサでの「事件」に巻き込まれてゆきます。ミステリー要素が多いですが、消防団のメンバーがとても個性的で、笑えるところもいっぱいあり、一気に読める作品です。



『怪物』 坂本裕二 著 宝島社

カンヌ国際映画祭で脚本賞を受賞した作品のノベライズです。脚本家でこの本の著者の坂本裕二さんは、この「怪物」という作品で、カンヌ映画祭脚本賞を受賞し、一躍世界で名を知られる人となりました。

息子を何より大切に思う母親。少し変わりもののけど誠実な教師。学校をどうしても守りたい校長。そして、「何か」に苦しむ子供。それぞれの視点で語られる「事実」の中にある、「真実」とは何か。私は映画を先に観ましたが、飽きることなく最後まで観る事ができました。映画の中で消化仕切れない部分を、小説で補うという感じで読むと、新たな発見があり、映画とは違った楽しみ方ができました。



『やさしい猫』 中島京子 著 中央公論新書

いま、日本で暮らしている在留外国人の数は、およそ300万人。広島県民ぜんぶよりも多い数だとか。しかも、190以上の国と地域から来ているんだそうです。わたしが子どものころとは、時代が変わったんだなあと感じます。『やさしい猫』では、そういう時代の家族について、描いてみたかったです。シングルマザーのミユキさんが、スリランカから来た青年のクマラさんと恋をして、娘のマヤちゃんと三人で小さな家族を作ります。その小さな家族に何が起こったか。多くの人に知ってほしいと思って小説を書きました。(NHK ホームページ 原作者中島京子さんのコメントより)



『落日』 湊かなえ 著 角川春樹事務所

天高図書館でも人気の湊さんが、作家生活10周年の節目に書き下ろした作品です。WOWOW でドラマ化され、9月に放送・配信されます。

映画監督の香は、ある町で起きた殺人事件をテーマに映画を撮りたいと考えていました。そして、脚本は新人脚本家でこの町出身の真尋に相談を持ちかけていました。判決の出ているこの事件に、なぜ香は興味があるのか。二人で事件を調べてゆくうちに、ある真実にたどりついてゆきます。

この作品も間違いなく、湊さん作品の特徴である「嫌ミス」(嫌な余韻が残るミステリー)です。湊さんの作品の読了後は、「まじ!?!」「なんで、そうなるの!?!」という思いで心が一杯になり、しばらく放心状態となり、心のぐったり感は半端ではありません。それでも、新しい作品が出版されると、手に取ってしまう。いわゆる「沼にハマる。」ということでしょうか。彼女の初期の作品「告白」は単行本・文庫本併せて377万部を越えるベストセラーとなりました。まだ湊ワールドを経験した事がない人は、まず、この「告白」を読んでみてください。「沼」にハマってぬけられなくなることでしょ。

センセイからのおすすめぼん

『本日はお日柄もよく』

原田マハ 著 徳間書店

私がこの本を手にとったのは、職業柄言葉を扱う立場であるということもありますが、一番は大切な友人の結婚式で友人代表スピーチを任されることになったのが大きかったです。今、自分が欲しい言葉を知ることができるような気がして手に取りました。自分の発する言葉で、多くの心を動かすことができる。そんな言葉の力を改めて感じる事ができる1冊です。こと葉がスピーチをする結婚式の場面がおすすめです。

たくさんの人とたくさんの言葉を交わすみなさんに、今の世の中は顔を見せずに言葉を発信でき、こちらの書いてほしい文章を指示通りに書いてくれるAIなども多くあります。しかし、そんな今だからこそ、もう一度生きた言葉の持つ力や言葉を発する人の“想い”が人を動かすことを知ってもらいたいと考え、この本を薦めます。(国語科 水島悠佳先生)